

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月3日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	やまとあけぼの学園運営費		部	子ども未来部			係	やまとあけぼの学園			
	[やまとあけぼの学園運営事業]		課	保育課			課長名	石川 正憲			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	1 子どもたちの笑顔があふれるまちづくり					第五次基本計画	51 ページ			
		2 健康であたたかい心のかよいあうまちづくり						75 ページ			
	施策	施策1	—	1	子育て支援（重要施策）			複数施策	☑ あり		
		施策2	—	3	障害者福祉						
	展開方向	☑ 子どもたちの成長と発達を支援する環境づくり					重要施策	☑ 該当			
		☑ 支援や配慮を必要とする子どもたちを支える環境づくり					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ			
☑ ライフステージに対応した支援と社会活動への参加の推進					実施計画	☐ 該当					
事業種別	☑ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）										
予算科目	会 計	一般会計		款	3	項	2	目	8	事業番号	2
開始年度	昭和 47 年度			☐ 不詳		行政報告書	273 ページ		新規・継続	継続	
実施の根拠 (法令・要綱等)	東大和市立やまとあけぼの学園条例、東大和市立やまとあけぼの学園条例施行規則										
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		心身の発達にかたよりや遅れのある就学前の児童に対し、自立を助長するために必要な指導及び訓練等、早期療育を行い、児童の福祉増進を図る。								
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	やまとあけぼの学園に通園している児童				療育を通して児童の力を引き出し、自立へ近づける。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	発達につまりきのある就学前の児童に対し、自立を助長するために必要な指導及び訓練を実施した。 ①療育 221日 ②機能訓練 44回				円滑に早期療育を行った。						
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
		年度目標値	%	100		100		100			
		効果実績値	%	100		100		92.3			
		目標値設定の考え方	通園者のうち、事業所の支援に満足していると感じる保護者の割合（保護者評価回答のうち満足をしている割合）を高める。								
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	26,350,453		29,253,215		27,705,584				
財源		一般財源	円	4,671,400		0		1,913,099			
		特定財源（国・都・他）	円	21,679,053		29,253,215		25,792,485			
		（うち受益者負担）	円								
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	5.0		6.0		5.0			
		所要人数（再任用）	人	2.0		1.0		1.0			
		職員人件費（再任用以外）	円	41,900,000		49,500,000		40,800,000			
		職員人件費（再任用）	円	6,995,000		4,031,000		3,007,000			
事業費+人件費		円	75,245,453		82,784,215		71,512,584				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	他の施設との交流や活動について保護者から意見があったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施しなかった。今後、新型コロナウイルス感染症への対応の変更により、実施を検討することとした。										

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：					
	☐ 取組んだ ☒ 取組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）					
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点							
これまで行事（あけぼの祭り）でボランティアの協力を得てきたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止してきた。感染拡大状況等を見極め、実施について検討をしていきたい。								
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)							
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 通園者のうち、事業所の支援に満足していると感じる保護者の割合は高水準を維持している（令和4年度は未回答のものがあったため100%になっていない）。					
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)							
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 任用できた会計年度任用職員数の違い等により事業費は上下するものの、概ね例年と同水準の経費を維持している。					
	(3)指標の達成状況の評価							
		(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性		
	(1)		向上	維持			低下	
	効果指標	向上	A	B			D	E
		維持	C	E			G	
		低下	F	H			I	
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。								
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）								
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明： 消耗品費等について、真に必要なもののみを執行するよう精査をする。						
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)								
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明：第五次基本計画の施策を推進するため、やまとあけぼの学園において当該事業を推進してきたが、第二給食センター跡地の利活用や園舎の老朽化等などに伴い、令和6年4月1日より第二給食センター跡地に民間活力を導入し、現在、やまとあけぼの学園で実施している事業を継承しつつ、新たに地域支援を付加した児童発達支援センターを開設する。そのため、事業者へ事業引継ぎをする必要があり、計画的に進めることとする。また、廃園後のやまとあけぼの学園については、施設の解体や売却、利活用等も含め検討していく。						
7 課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）							
	・児童発達支援センターへの事業引継ぎを計画的に進める。 ・引き続き保護者との信頼関係の醸成に努め、事業の引継ぎや新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、廃園まで円滑な施設運営を実施したい。							
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと							
・児童発達支援センターへの事業引継ぎに向けた準備に着手した。 ・保護者へ廃園に関する情報提供を行った。								
8 今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）							
	通園者及びその保護者への負担を減らすため、児童発達支援センターの事業者と計画的な引継ぎの実施を行う必要がある。							
	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）							
児童発達支援センターの開設に向け、事業者と連携、情報共有を図りながら、相談への同席や療育の視察等の引継ぎを実施し、通園者及びその保護者への負担にならないよう円滑な事業移行を図る。								